

山口情報芸術センター [YCAM] 特別上映会

映像で見る世界のダンス vol.2 「特集 ひじかた たつみ 土方巽」

2011年9月23日(金・祝) – 25日(日) 会場：スタジオC

料金：700円 【全作品券】一般1,500円 / any会員・特別割引・25歳以下1,200円

※レクチャー、トークイベントは、入場無料 ※各回入替制 / 定員100名

貴重な映像でよみがえる、舞踏家 土方巽のパフォーマンス  
今日に至るその魅力を「映像」と「言葉」から考える、特別上映会

山口情報芸術センター [YCAM] では、舞台芸術の歴史と、映像によって語られる身体表現の魅力を紹介する上映シリーズ「映像で見る世界のダンス」を開催いたします。2010年度に続き、2回目となる今回の上映会では、舞踏家、ひじかた たつみ 土方巽について、記録映像4作品の上映、レクチャー、トークイベントを通じて、ご紹介します。

1960年代に土方によって創始された暗黒舞踏は、「BUTOH」の名として世界中に伝播し、多様な芸術表現、幅広い世代へと影響を与え、現在の日本のダンスシーンにおいてもその軌跡を見ることができます。本特集では、土方の身体像を描写し、その時代背景までを感じさせる貴重な記録映像、土方の思想を伝えるテキスト、創作に携わった人物の語りから、土方の魅力と今日における土方の功績を考えます。貴重な映像記録とともに、もうひとつの記録である言葉を通じ、土方巽という、現代に続くイマジネーションの源泉をご紹介します。



土方巽「肉体の叛乱」 撮影：羽永光利

## ■ 上映作品 \* 「肉体の叛乱」「瘡瘡譚」は2作同時上映

なつのおらし 「夏の嵐 はんまだいとうかん 燐機大踏鑑」監督：荒井美三雄(2003年 / 71分)

にくたいのはんらん 「肉体の叛乱」撮影：中村宏(1968年 / 14分) \*

ほうそうたん 「瘡瘡譚」監督：大内田圭弥(1972年 / 95分) \*

やうぶつしんたん 「陽物神譚」監督：鈴木靖爾(1973年 / 60分)

## ■ 関連イベント《入場無料》 \* 要上映チケット、または上映チケット半券

・9月24日(土) 13:35 レクチャー「土方巽一言葉と身体」

講師：安藤礼二(文芸評論家)

・9月24日(土) 15:50 トークイベント「人間土方巽(カマイタチの跋扈)」

ゲスト：まるあかし 唐赤兒(大駱駝艦主宰 / 舞踏家 / 俳優)

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：廣田

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

## 映像で見る世界のダンス vol.2 「特集 土方巽」

ひじかた たつみ

### 貴重な記録映像から見てくる、土方巽の身体像と、その時代。

本上映会では、土方の生涯最後となった舞台、大駱駝艦・だいらくだかん  
天賦典式「陽物神譚」てんぷてんしき ようぶつしんたん（1973年）をはじめ、土方の公演を唯一ノーカットでおさめた「瘡瘡譚」ほうそうたん（1972年）の全編など、歴史的な作品の記録映像4作を3日間にわたって上映します。また、レクチャーでは文芸評論家の安藤礼二氏あんどうれいじを講師に、トークイベントでは鷹赤兒氏たかあかじをゲストに迎え、土方が残した「言葉」とその創作に注目し、土方が築いた言葉と身体にある特異な関係を読み解きます。アンダーグラウンド的な評価にとどまらず、身体像、時代、言葉に注目することで、今日のパフォーミングアーツに向けた新たな示唆と、現在も輝き続ける土方の魅力をご紹介します。

#### 映像でよみがえる、土方巽の身体像と、その時代。

暴力と倒錯した性の執念としての肉体、呪術的な白塗りや白眼、がに股などの日本的身体に根ざした土方の「暗黒舞踏」。身体がもつ様々な記号や表象を見出し、肉体をもって生の根源を問い続けた土方の表現は、西洋舞踊に対するアンチテーゼとして、大きな衝撃とともに迎えられました。土方が活躍した1960～70年代は、世界各地で大規模な紛争、弾圧とそれに対する抵抗運動が勃発し、日本でも、学生運動が高まりをみせていました。そんな時代を背景に、土方は、三島由紀夫、細江英公、澁澤龍彦、瀧口修造ら時代を先導する文学者、芸術家と交流しながら、その思想を深化させ、多分野に影響を与えるカリスマ的存在として知られるようになりました。記録映像からは、土方とともに時代を築いた美術家をはじめ、舞踏史に名を残す舞踏家の姿、当時の熱気や、幻想的な世界観を見ることができます。

#### 言葉、そして踊ること一。今日に至る、土方の魅力とは。

土方没後も、同時代に活躍した舞踏家、弟子たちの創作や公演、教育活動によって、日本では、土方をはじめとする舞踏第一世代から第三世代、そしてポスト世代と呼ばれる前世代の影響を受けたコンテンポラリーダンスの振付家が活躍を続けています。土方の存在が日本の芸術文化史に刻まれ、「舞踏」の系統図が増殖を続ける背景には、その「言葉」「テキスト」の存在も挙げられます。土方は、創作においても、大量の言葉からダンサーの身体を造形するかのように振付をおこなったと言われていいます。本上映会のレクチャー、トークイベントでは、土方の創作について、さらには言葉と、踊ることをつなぐ特異な関係と、現在に至るその世界観について考えます。

#### 土方巽 Tatsumi Hijikata

##### 舞踏家／振付家

1928年、秋田県生まれ。1946年、18歳の頃よりダンスを習得し、1949年に大野一雄舞踊公演に衝撃を受ける。1958年には、土方巽の名でヨネヤママコ、大野一雄と共演。1959年には、作品「禁色」を大野慶人とともに発表し、舞踊界に衝撃を与える。以降、三島由紀夫、細江英公、澁澤龍彦らと交流し、暗黒舞踏の創始者として数多くの作品を発表。1973年の大駱駝艦「陽物神譚」での特別出演を最後に自ら踊ることはなく、1974年にアスベスト館に劇場を開設。ここを拠点に構成、演出、後進の指導に当たる。1986年、享年57歳で逝去。没後も世界中のダンス界、アート界に多大な影響を与え続けている。

##### ■主な舞台作品

1963年	「あんま」
1965年	「パラ色ダンス」
1968年	「肉体の反乱」
1972年	「瘡瘡譚」
1973年	「夏の嵐」「静かな家」

##### ■主な書籍

1969年	細江英公による写真集「鎌鼬」
1976年	著書「犬の静脈に嫉妬することから」
1983年	「病める舞姫」
1987年	遺文集「美貌の青空」
1998年	「土方巽全集」 (河出書房新社／編集：種村季弘、鶴岡善久、元藤燦子)



土方巽「肉体の反乱」 撮影：中谷忠雄



土方巽「瘡瘡譚」 撮影：小野塚誠

## 上映作品

なつのはらし  
「夏の嵐 燐熾大踏鑑」

全共闘運動の残り火がまだ消えやらぬ1973年6月、京都大学西部講堂での公演「夏の嵐」の記録映像。8ミリカメラ3台に記録された映像を、デジタル技術を駆使することにより修復した。新たに、土方のルーツである東北の風土を伝える映像を付け加えて、2003年に完成した作品。

2003年／71分／カラー／デジタル上映

「夏の嵐 燐熾大踏鑑」1973年6月(京都大学西部講堂)

企画／脚本／監督：荒井美三雄 舞台構成／演出／振付：土方巽

出演：土方巽、芦川羊子、小林嵯峨、仁村桃子、桂真菜、玉野黄市、佐藤諤一、和栗由紀夫、雨宮一光、立花隆一、花上直人、小野洋

詩：飯島耕一「過ぎし戦いの日々を思う」(「八月の詩」より) 朗読：土方巽

配給：イメージフォーラム+荒井事務所

にくたいのはんらん  
「肉体の叛乱」

撮影：鳥居良禅

1960年代の土方舞踏の集大成と言われるソロ公演「土方巽と日本人～肉体の叛乱」の記録映像。本作を契機に、土方は、マスメディアでも大きく取り上げられたり、劇映画に出演したりと、その名を広く知られるようになった。また、本公演のポスターを横尾忠則が制作、舞台美術を中西夏之が手がけるなど、前衛芸術の第一線で活躍する芸術家が集った作品としても知られている。

1968年／14分／モノクロ／デジタル上映

「土方巽と日本人～肉体の叛乱」1968年10月9日-10日(日本青年館)

撮影：中村宏 構成／演出／振付／出演：土方巽 美術：中西夏之

ほうそうたん  
「瘡瘡譚」

撮影：小野塚誠

土方巽による演出／出演の作品が、完全収録された唯一の映像記録。土方の発想やイメージの記述である舞踏譜により創作された本作は、ノーテーションによる舞踏のはじまりを告げる重要な公演とされる。土方による圧巻のパフォーマンスはもちろん、舞踏史に名を残す芦川羊子などの舞踏家たちも多数出演している。

1972年／95分／モノクロ／デジタル上映

「瘡瘡譚」1972年10月26日(アートシアター新宿文化)

監督：大内田圭弥 構成／演出／振付：土方巽

出演：土方巽、芦川羊子、小林嵯峨、仁村桃子、黒崎翠、吉野弘子、玉野黄市、

青柳和男、和栗由紀夫、雨宮光一、佐藤諤一ほか 演奏：木田林松栄、佐藤康和

ようぶつしんたん  
「陽物神譚」

写真提供：大駱駝艦

まるあかじ 磨赤兒率いる舞踏集団「大駱駝艦」の旗揚げから一年余りの1973年におこなわれた磨の振付・演出による第3回公演。磨の師である土方巽が客演する本作は、土方生前最後のパフォーマンスといわれる。本作の原作は、古代ローマの皇帝ヘリオガバルスをモチーフにした澁澤龍彦の短編。磨をはじめ、舞踏家、天児牛大、室伏鴻の若き日の姿も見る事ができる。

1973年／60分／モノクロ／デジタル上映

天賦典式「陽物神譚」1973年10月(日本青年館)

監督／撮影：鈴木靖爾 原作：澁澤龍彦 構成／演出：磨赤兒

出演：磨赤兒、ピショップ山田、室伏鴻、天児牛大ほか 特別出演：土方巽

## 上映スケジュール

\*「肉体の叛乱」「瘡瘡譚」は、2作同時上映。 \*レクチャー、トークイベントは入場無料(要上映チケット、または上映チケット半券)

9月23日(金・祝)

13:30 「夏の嵐 燐熾大踏鑑」  
15:30 「肉体の叛乱」「瘡瘡譚」\*  
19:00 「陽物神譚」

9月24日(土)

10:30 「肉体の叛乱」「瘡瘡譚」\*  
13:35 レクチャー\* 講師：安藤礼二  
14:40 「陽物神譚」  
15:50 トークイベント\* ゲスト：磨赤兒  
17:00 「夏の嵐 燐熾大踏鑑」

9月25日(日)

13:30 「陽物神譚」  
15:00 「夏の嵐 燐熾大踏鑑」  
17:00 「肉体の叛乱」「瘡瘡譚」\*

## もう一つの記録。土方巽の言葉と創作を知る、レクチャー&トークイベント

「病める舞姫」に代表される土方の著書や、難解で複雑なイメージに溢れた土方の「舞踏譜」は、1998年の「土方巽全集」出版に伴い、論考・再読される機会も多くなりました。本レクチャーでは、全集の編集を手掛けた安藤礼二氏を迎え、民俗史や文学史から見た土方の言葉と、今日に至る歴史的な広がりをご紹介します。さらに、トークイベントでは、土方の生前最後のパフォーマンスとなった作品「陽物神譚」の振付・演出を手掛けた磨赤児氏をゲストに、土方の創作について、当時の時代背景を含めてお話しを伺います。

**講師【レクチャー | 9月24日(土) 13:35】**

**安藤礼二 | Reiji Ando**

文芸評論家

1967年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。大学時代は考古学を専攻し、編集者を経て2002年「神々の闘争—折口信夫論」で群像新人文賞優秀作を受賞して文芸評論家へ。編集者時代には「土方巽全集」(河出書房新社、1998)を手がける。「光の曼陀羅 日本文学論」(講談社、2008)で第3回大江健三郎賞、第20回伊藤整文学賞を受賞。現在、多摩美術大学美術学部准教授、芸術人類学研究所所員。民俗学とシュルレアリスムの交点を探っている。

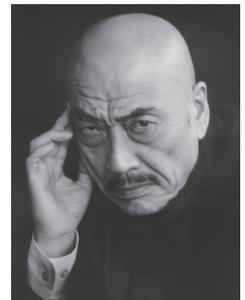
**ゲスト【トークイベント | 9月24日(土) 15:50】**

**磨赤児 | Akaji Maro**

大駱駝艦主宰／舞踏家／俳優

1943年生まれ。大駱駝艦主宰。1964年舞踏家、土方巽に師事しながら唐十郎とともに劇団「状況劇場」を設立。60年代は、唐十郎の「特権の肉体論」を具現する役者として、その怪物的演技技術により、演劇界に多大な影響を及ぼす。1972年に舞踏集団「大駱駝艦」を旗揚げし、舞踏に大仕掛けを用いる手法「天賦典式」を導入。その作品は、日本のみならずアビニオンフェスティバル(フランス)、アメリカン・ダンスフェスティバル参加により海外でも大きな話題となり、舞踏を「BUTOH」として世界を席巻する。ダンサー、役者、演出家として多様な表現ジャンルを越境しながら、舞台芸術の分野で先駆的な地位を確立している。1974年、1987年、1996年、1999年、2008年舞踊評論家協会賞受賞。2006年文化庁長官表彰受賞。2011年11月にはスペイン、フランスでのツアーを予定。

<http://www.dairakudakan.com/>



### 開催概要

山口情報芸術センター [YCAM] 特別上映会  
映像で見る世界のダンス vol.2 「特集 土方巽」  
2011年9月23日(金・祝) - 25日(日)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオC

料金：700円 ※会場前の券売機にてチケットをご購入ください。

\*全作品券 一般1,500円 / any会員・特別割引・25歳以下1,200円

※各回入替制 / 定員100名

\*全作品券を、電話／窓口にて予約、販売しております。

※チケット発売：8月6日(月)

電話／窓口：

山口市文化振興財団チケットインフォメーション (YCAM内)

083-920-6111 (10:00-19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

■特別割引：シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

■未就学児入場不可。

■託児サービス 時間：13:00-17:00 対象：1歳以上

料金：お子様1人につき150円 / 30分～最大500円

※当日1階チケットインフォメーションまでお申し込みください。

満員の際は順番制。

■車椅子席・補聴システム：事前にお問い合わせください。

■上映作品 \* 「肉体の叛乱」「疱瘡譚」は2作同時上映

「夏の嵐 燐機大踏鑑」監督：荒井美三雄(2003年 / 71分)

「肉体の叛乱」撮影：中村宏(1968年 / 14分) \*

「疱瘡譚」監督：大内田圭弥(1972年 / 95分) \*

「陽物神譚」監督：鈴木靖爾(1973年 / 60分)

■関連イベント 《入場無料》

9月24日(土) 13:35

レクチャー「土方巽一言葉と身体」講師：安藤礼二(文芸評論家)

9月24日(土) 15:50

トークイベント「人間土方巽(カマイタチの跋扈)」

ゲスト：磨赤児(大駱駝艦主宰／舞踏家／俳優)

モデレーター：宇野萬(舞踏家)

※関連イベントへの入場には、本特別上映会のチケット、またはチケットの半券が必要です。

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

支援：平成23年度優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業

協力：大駱駝艦、NPO法人舞踏創造資源、慶應義塾大学アート・センター

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]